

六ツ美中部学区

MUTSUMICHUBU



六ツ美中部小学校の活動紹介

◆稲刈り体験学習

毎年、六ツ美中部学区の農家の方に教えてもらいながら、田植えから収穫までの作業を体験しています。収穫感謝祭では、2年生と5年生が新米をごちそうになります。



中部学区に住む二村さんと成瀬さんから田植えについて教えてもらいました。植え方を分かりやすく教えてもらえたので、知らなかったことがたくさんありました。久しぶりに田植えをやったのでどきどきしたけど上手にできたので良かったです。12月の「二村さんと成瀬さんに感謝する会」では、田植えと稲刈りについての劇やクイズをやりました。米作りがとても大変だということを伝えられました。収穫したお米は、いつも家や学校で食べている味とはちがい、新せんな味でおいしかったです。
平成27年度六ツ美中部小学校5年生 山崎絢葉さん



◆花壇コンクール

花壇づくりを通じて、自然環境を守り、愛する気持ちを育んでいます。平成22年のフラワー・ブラボー・コンクールでは日本植物園協会賞を受賞。平成24年には愛知県大賞（最優秀）に選ばれました。学校花壇のほか、六ツ美中部学区の広場や公園、道端などにも花壇があり、道行く人を楽しませています。



◆学区子どもまつり

平成4年に子どもまつりが始まった頃はお店屋さんごっこや映画祭を行っていました。今は竹トンボや駒まわしなどの昔の遊び、手作りのゲームで遊んでいます。

子どもたちから未来へのメッセージ ※平成27年度



六ツ美中部小学校6年
内 凌慶さん
(下三ツ木町)

六ツ美の風景を見ると、とてもリラックスできます。受け継がれてきた田畑を未来の子どもたちに残したいです。



六ツ美中部小学校6年
犬塚 千凜子さん
(下合飲木町)

六ツ美は人の優しさがあります。あいさつの輪をもっと広げ、太陽のように明るい町にしたいです。



六ツ美中学校3年
石田 明大さん
(福桶町)

緑あふれる水田や伝統のある御田扇祭りのあるこの町が大好きです。未来まで残していきたいです。



六ツ美中学校3年
太田 紫音さん
(上合飲木町)

中部学区は田畑がとても豊かです。伝統的なお祭りと共に守り、受け継いでいきたいです。



編集後記

岡崎市制100周年記念事業の一環として六ツ美中部学区まちものがたりを作成しました。矢作川の恩恵を享受しながら、地域の先人が積み重ねてきた歴史と文化を振り返り、自然環境・文化遺産・伝統行事を紹介いたしました。学区の皆さまが地域を見つめ直すきっかけとなれば幸いです。作成にあたりご協力いただきました皆さま方に深く感謝申し上げます。

〔作成委員会〕 河原正史/都筑順一/鈴木正義/牧野正雄/蜂須賀友章/川澄幸浩/萩原利元/村田季士郎/鈴木義則

〔参考資料〕 六ツ美村誌/六ツ美風土記/ふるさと六ツ美西部/六ツ美西部の歴史紀行/愛知の稲(菜種編)/農総研季報/愛知県園芸発達史

〔表紙写真〕 碧の田園風景を進む御田扇祭りの行列



1 高松宮殿下が六ツ美の菜種を視察



2 転作作物として作られた大豆



3 大型農機具の導入で、農作業が劇的に変化する

六ツ美中部学区の なりたち



下青野町の椿宮神明宮に保管されている社額に「阿乎美村」の名が残っています

- 一八八九年 ■ 明治 22
- 一八九一年 ■ 明治 24
- 一九〇六年 ■ 明治 39
- 一八八九年 ■ 明治 22
- 一八九一年 ■ 明治 24
- 一九〇六年 ■ 明治 39
- 合飲木・高橋・下青野・福桶で耕地整理が始まる
- 碧海郡六ツ美村が誕生。合飲木村・青野村・中島村・糟海村・中井村・占部村を併合。下青野に役場を設置
- 六ツ美第一尋常高等小学校（現在の六ツ美中部小学校）が開校
- 高橋の耕地整理が一部竣工
- 悠紀斎田記念事業の一環で六ツ美村立農業補習学校が六ツ美第一尋常高等小学校の隣に開校
- 菜種の栽培が本格的になり、六ツ美村が菜種の産地になる
- 高松宮殿下が六ツ美村立農業補習学校を訪問し、菜種を視察…
- 六ツ美の菜種「六ツ美種」が県の奨励品種となる
- 菜種が国策作物として重視され、栽培がピークを迎える
- 六ツ美中部小学校と改称、六ツ美中学校が開校
- ニンジンのビニールトンネル栽培が高橋町を中心に普及
- 六ツ美中保育園が開園
- 町制施行で碧海郡六ツ美町となる
- 六ツ美町商工会が設立
- 東海道新幹線の工事が始まる

冬の風物詩、竹馬大会

大人も子どもも

走って元気よく！

冬の季語「竹馬」。今は竹馬で遊ぶ子どもたちの姿を見ることが少なくなくなりましたが、六ツ美中部の冬の遊びといえば、竹馬です。

戦後間もない頃は、学区の至るところに竹藪があり、自分の背丈に合った竹を探し、おじいちゃんや上級生に教わりながら作ったものでした。

昭和48年より、六ツ美中部小学校の運動場で、正月明けの毎年1月に竹馬大会を開催しています。当日は学年選抜リレー、町別対抗リレー、障害物リレーなどの種目があり、運動会さながらの盛り上がり。子どもも大人も楽しみながら競います。



手作りの竹馬

指で竹竿を挟むと足元が安定するので裸足がおすすめ！



329人の世界記録達成で認定証をゲット！



竹馬でギネス世界記録を達成！

地元では「高橋ニンジン」として知られています



六ツ美中部学区と 菜種のかかわり

稲作と菜種栽培が始まる

かつて六ツ美平野は農業に適さない湿地でしたが、明治末期から大正時代に行われた耕地整理と用排水路整備により、二毛作が可能な水田に生まれ変わりました。それに伴い、米の裏作として導入されたのが菜種です。工業が発展し、菜種油の需要も増加したため、愛知県全域で菜種が栽培されるようになりました。三河地方ではとりわけ六ツ美村が盛んでした。

全国一の六ツ美の菜種

最盛期は昭和初期です。苗の植え付けは稲刈りが終わった11月下旬から12月上旬にかけて、花が咲き始めるのは3月下旬です。六ツ美平野は黄色の絨毯を敷き詰めたような風景が広がり、蜂蜜を採取する養蜂業者の姿も見られました。

DATA

人口	5,398人
男性	2,737人
女性	2,661人
世帯数	1,837世帯
面積	7.43km ²
[2016年7月1日現在]	

平成28年9月18日、竹馬でギネス世界記録に挑戦しました。挑戦内容は「24時間以内の竹馬リレー」で、標準記録は250人。事前に挑戦者に試走してもらって平均タイムを割り出し、早朝5時から六ツ美中部小学校の運動場で競技がスタートしました。

竹馬に乗って一人が1000mのコースを歩き、次の走者に順次交代していきま

す。途中、竹馬が壊れたり、雷雨で最終走者までできなかったり、様々なことがありましたが、夜8時半には329人の世界記録を達成できました。



六ツ美中部ギネス実行委員会のキャラクター「六助」

記念品のオリジナル
ピンバッジ



六ツ美中部学区の 二大イベント



6 六ツ美中部小学校の北側に咲く菜の花畑 5 ハウス栽培が普及し、早期出荷が可能になった 4 コンバインで稲を収穫する

一九六二年 ■ 昭和 37
一九六四年 ■ 昭和 39
一九六五年 ■ 昭和 40
一九六六年 ■ 昭和 41
一九七〇年 ■ 昭和 45
一九七三年 ■ 昭和 48
一九七六年 ■ 昭和 51
一九八五年 ■ 昭和 60
一九八九年 ■ 平成 1
一九九七年 ■ 平成 9
一九九八年 ■ 平成 10
二〇〇〇年 ■ 平成 12
二〇〇二年 ■ 平成 14
二〇一五年 ■ 平成 27
二〇一六年 ■ 平成 28

夏の風物詩、御田扇祭り

町から町へ、

扇さんがやってくる

伊勢神宮のお田植え神事に由来する御田扇祭りは江戸時代から続く祭事です。稲の虫除けと五穀豊穡を願い、檜製の大きな扇で虫除けを行うことから「御田扇祭り」といわれるようになりました。

この祭りは手永という呼び名で分けられた岡崎藩内の六つの地域で行われてきました。現在も続けられているのは矢作川左岸に沿う「堤通手永」と占部川沿いの「山方手永」の二つのみ。堤通手永は岡崎市と西尾市をまたぐ20町、山方手永は岡崎市と幸田町をまたぐ13町で構成され、各町が持ち回りで1年ごとに担当します。つまり堤通手永では20年、山方手永は13年で一巡することになり、順番が回ってきた町は住民総出で盛り上げます。



祭りは毎年7月20日前後の日曜日に行われます。伊勢神宮から御神符を請けて神輿に収め、先達、白杖、大小の幟、御幣、大団扇、提灯、花傘、唐櫃、榊桶、太鼓や踊り連、子ども神輿などの渡御行列を組み、翌年当番する隣町まで渡御します。

御田扇祭りの見どころ

堤通手永の行列のなかでひときわ目を引くのが花傘です。この花傘は3基あり、そのうちの1基は祭りを担当した町が新調します。番傘を広げたような天蓋状の上部は緑や黄、青などの造花で飾り付け、傘の中にはニンジンやダイコン、キュウリなどの野菜、お猿子や梅の花、米俵などの縁起物になぞらえた飾り物が吊り下げられています。飾り物の数はなんと1500個以上。これらすべてを町内の女性たちがひとつひとつ手作業で作っています。



碧海郡六ツ美町が岡崎市に合併する
東海道新幹線が開通
菜種に代わり、転作作物として麦や大豆が栽培される…2
トラクター、田植機、バインダー、コンバイン等の機械化農業への移行が進む…3
合歓木・高橋・下青野・在家・上三ツ木の一部が工業専用地域の指定を受ける
ビニールハウスのほか、ガラス温室がキュウリ・ナスの栽培に導入される…5

六ツ美中部小学校で竹馬大会が始まる(↓特集)

六ツ美市民センターが開館

六ツ美中部学区市民ホーム・勤労者体育センターが開館

第1回六ツ美商工まつりが開催

六ツ美中部学区こどもの家が開館

平成の圃場整備が始まる。第1工区(上青野)、第3工区(上青野・高橋・上合歓木・下合歓木)、第4工区(福桶)、その後、上三ツ木・下三ツ木・坂左右・下青野でも行われる



南部地域福祉センターが開館
ふれあいドーム岡崎がオープン

高橋用水上部遊歩道の清掃作業が始まる

御田扇祭り(堤通手永・山方手永)が岡崎市無形民俗文化財に指定される(↓特集)

六ツ美中部小学校で菜種栽培の再現、菜の花コンサート開催…6
竹馬でギネス世界記録329人達成(↓特集)

1 田園風景のなかを、御田扇祭りの渡御行列がゆっくり進む 2 奉納踊り 3 巫女舞いの奉納 4 豪華な花傘 5 色とりどりの造花で埋め尽くされた花傘の上部 6 おしゃべりも楽しみながら飾り物作り

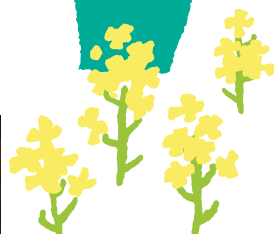


花が散った6月、小さな鞘にぎつしり詰まった黒い菜種の実を一家総出で収穫し、「カマス」と呼ばれる藁で作った袋に詰め、六ツ美産業組合(六ツ美農協の前身)へ出荷。福岡町の太田油脂や蒲郡市の竹本油脂などで加工され、菜種油として販売されました。

菜種栽培の研究とその終焉

菜種栽培は農家に大変な重労働を強いました。その改善に取り組んだのが六ツ美村立農業補習学校の教員だった太田功平らです。栽培方法や品種改良の研究が功を奏し、昭和4年以降は収穫量が倍増。県の奨励品種にも採用された「六ツ美種」は広く栽培され、いつしか「六ツ美の菜種か、菜種の六ツ美か」といわれるほど名を知らしめました。この業績は菜種作史上永遠に残るものとなりました。

しかし、昭和37年の長梅雨と翌38年の異常低温により収穫量が半減します。さらに大豆の輸入化で大豆油の生産量が増大し、菜種油の需要が減少。これらの要因が重なり、昭和40年には菜種生産はほとんど行われなくなりました。現在は観賞用に所々で栽培されている程度ですが、六ツ美中部小学校や六ツ美中学校の校歌の中で今も歌われています。



六ッ美中部学区は昔も今も農業が盛んな土地。初夏には青々とした水田、黄金色の麦畑が織りなす風景が見られます。由緒ある神社仏閣も多く、町巡りも楽しめます。

六ッ美中部の寺院 A~F



A 地藏堂（在家町）
慶長元年（1596）に家康公が参拝されたとの記録が残る由緒ある御堂です。毎年8月と1月の土日には地藏尊まつりがあり、地藏菩薩と先祖の供養を行います。御堂には地獄絵図が吊り下げられ、おどろおどろしい絵におびえる子どもたちも。祭りが終わるとお下がりのお菓子がもらえます。



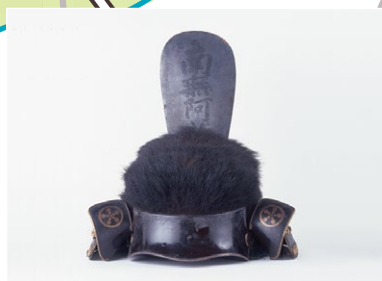
B 薬師堂（坂左右町）
近江のムカデ退治の伝説で知られる藤原秀郷をはじめ、その子孫が本尊の薬師如来を崇拝してきました。その後、村人の病を防ぐ神として大切にされています。



C 本光寺（上青野町）
天元3（980）年に天台宗寺院として創建。本堂が現在地に落ち着いたのは慶長6年（1601）です。東本願寺の建築様式を伝える本堂、二階建ての山門（楼門）は国の登録有形文化財です。



D 正願寺（下合歓木町）
室町時代に建立され、本堂の絹本着色善導大師像（絵画）は市の文化財です。境内には6本のシダレザクラがあり、毎年3月下旬に見頃を迎えます。4月の蓮如忌には大勢の参拝客が訪れます。



E 観音寺（下三ッ木町）
戦国時代の武将、三ッ木城主の松平信孝が愛用していた熊毛兜が保管されています。黒い毛皮で覆われた珍しいもので、昭和47年（1972）に市の文化財に指定されました。



F 慈光寺（下青野町）
推古4年（601）の創建。風格のある太鼓堂に目を引かれます。鐘楼堂の彫刻は江戸後期に多くの名工を輩出した立川流によるもの。山門横のイチヨウは樹齢約200年で市の名木に選定されています。



新幹線が見える
ビューポイント

COLUMN

六ッ美中部の地域活動

高橋用水上部遊歩道の 清掃作業



平成5年から16年の歳月をかけて暗渠化が完了しました。水路の上に遊歩道が設置され、毎月草刈りやせせらぎ水路の掃除を行っています。

安藤川各支川の清掃作業



田植え前の4月中旬、7月上旬、8月下旬の年3回、水路の草刈り、川底の泥を掘り出し、排水路をきれいにしています。

親子にこにこコスモス ウォーキング



毎年11月に、子どもたちに故郷を愛する心と農村環境を守ることの大切さを伝えるために行っています。小学校を起点に、神社やお寺、コスモス畑を巡りながら道路脇のごみを拾っています。